

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：10105

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10274

研究課題名（和文）初期臨床研修制度における外来診療研修の方法に関する研究

研究課題名（英文）Research on the methods of outpatient clinical training in the early clinical internship program

研究代表者

川畑 秀伸（Kawabata, Hidenobu）

帯広畜産大学・その他部局等・教授

研究者番号：20325864

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：2020年に必修となった研修医の一般外来診療研修を明らかにする目的で、医師13名に半構造化個別インタビューを行い、研修の方法、課題、指導能力を調べた。

その結果、研修方法は一連の診察を研修医が行い、指導医がフィードバックする形で、症例の難易度や研修医の能力に応じて診療の一部を指導医が行っていた。重症度把握、臨床推論、コミュニケーション、指導内容の絞込み、フィードバック、経験的知見と医学的根拠、患者中心の医療、社会人としての態度を重視していた。課題には研修医の意欲や指導者不足があった。医師は研修の基本理念と目標を達成すべく、自らの指導能力を教育、臨床、態度の視点からとらえ外来診療を指導していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般外来診療の研修方法と医師育成に関して、研修医教育に関わっている指導医と研修医の考えを明らかにした。

医師育成において医師が重視する3つの能力は、教育的態度（成人教育理論や指導方法を用いて、研修医の意欲を引き出しながら外来診療初学者にあった内容を効果的に指導する能力）、臨床能力（最新の医学的根拠と十分な経験に裏付けられた臨床能力）、人間性（良好な対人関係を築くことができ、職業意識と自らの医療観を認識して教育に反映させる能力）であることが分かった。

高齢・長寿化社会を支える本邦の医療は国内外で注目されており、その根幹となる人材育成や医師の能力に関

研究成果の概要（英文）： It is not well understood how junior residents are educated in general outpatient training, which became a requirement in 2020. This study aimed to explore the implementation of this mandatory training. Thirteen physicians specializing in pediatrics, internal medicine, and orthopedics were interviewed, focusing on training methods, challenges, and the skills required for supervising physicians. The recorded data were analyzed using content analysis.

The outpatient training methods included observation of the supervisor's patient care, actual patient care, presentations, and feedback. Emphasized content comprised severity assessment, clinical reasoning, communication, patient-centered care, and professionalism. The challenges included trainee motivation and the lack of sufficient time for instruction by the supervisors. Supervising physicians were found to require an educational attitude and techniques, clinical competence, and personal qualities to fulfill their role effectively.

研究分野：医学教育、総合診療内科

キーワード：初期臨床研修 外来診療 研修医教育 インタビュー調査 探索的研究 臨床能力 カリキュラム開発 医学教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2004年に始まった初期研修医への2年間の必修化臨床研修は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目標にしながら、病棟での研修が中心で一般外来診療研修は求められていなかった。しかし、プライマリ・ケアで遭遇する頻度の高い症状や疾患への臨床能力の習得には、患者がまず訪れる一般外来診療での症状から診断、治療に至る診療過程の研修は欠かせない。そのため2020年より初期臨床研修において、一般外来診療研修が必修となった[1]。ところが、外来研修を行ってきた研修施設は多いとは言えない。また、臨床研修施設の地理的、人的条件はさまざまであり、外来診療研修の実施方法は様とはならず、各施設が診療状況を考慮しながら外来研修の指導を行っている状況である。これより、新たな診療場面での研修医教育である一般外来診療の研修が、如何に行われているかはよく分かっておらず、そのノウハウも不足している。そのため、一般外来診療の具体的な指導方法と指導医に求められる汎用性のある指導能力を明らかにする必要がある。

医師臨床研修ガイドラインでの一般外来診療研修は、4週間以上の研修を通じて、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、全ての研修医が単独で診療できるレベルの習得を求めている[1]。具体的には、頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができることが到達目標である。実際、外来診療は時間や検査方法に制約がある中、目前の患者の意向、医療コストを考慮しながら、医師は判断・決断を行っている。このことは、一般外来診療研修の到達目標が、臨床医の基本かつ中心的な能力の一つであり、このような医師の本質的能力の養成方法・指導者の能力を明らかにすることは極めて重要と考える。

外来診療を教える方法と指導者に必要な能力とは何かといった調査研究は、調べた限りでは本邦ではほとんど実施されていなかった。海外での指導の在り方・必要な能力の研究として、成人学習理論や発達心理学の観点から、指導者の重要な能力は、臨床能力に加えて、学習者と指導者間の人間関係の構築を基にした学習者支援の態度との報告があった[2、3]。例えば、学習者の特徴を把握し、議論やフィードバックを通じて、学習者の成長を支援するといったコミュニケーション能力、学習者が委縮せず考えを表明できる学習環境づくりが指導医には求められていた。また、2009年より外来診療研修が必修となっている米国の内科研修では、糖尿病、禁煙、慢性疼痛など疾患を限定した外来診療に関する研修指導、研修医評価、プログラム評価の研究がなされていた[4]。

### 2. 研究の目的

一般外来診療を研修医に指導する際、指導医はどのような方法で研修医を指導し、その中から重視している内容、課題、指導医に求められる指導能力を明らかにする。一般外来診療の研修は2020年より初期臨床研修において必修となった項目で、全国の研修施設において如何に研修を行うかが課題となっている。また近年、医療における外来診療の役割は増しており、その研修指導の在り方はますます重要となっている。

### 3. 研究の方法

指導方法を具体的に・記述的に解明するのみならず、指導医と研修医の考えや意識を深く探ることができるインタビュー法を用いた。研修医への一般外来診療の指導経験を十分に有する指導医と指導を受けた経験のある研修医を合目的に選定して、次の5つの開放型質問を用いて半構造化個別インタビュー調査を行った。1)一般外来診療研修の指導方法、指導での工夫点と良いと考える点、2)指導で重視している内容、3)指導における課題(難しい点)と対応や対策、4)指導医に必要な指導能力、秀でていると考える点、指導医としてはよくないと考える点、5)新型コロナウイルス感染症の影響と対応について尋ねた。

調査対象者13名の属性は、平均年齢51歳；男性；研修医2名、指導医11名：小児科4名、内科3名、整形外科医2名、耳鼻科医1名、精神科医1名であった。各々約60分を要したインタビューを録音し、データは活字化して内容分析を行った。

### 4. 研究成果

一般外来診療研修の方法、内容、課題、指導医の能力について分析結果を順に示す。

研修方法：診察を研修医が行いその内容を指導医が指導する形が基本であり、その流れを示す。指導医が行う診察の見学、研修医による実際の診察、指導医へ症例提示、指導医からのフィードバック、検査の依頼、結果・診断・治療の確認と患者への説明、処方であった。症例の難易度や研修医の能力、診察時間の患者への配慮などを理由に、診療のすべてを研修医に任せるわけではなく、診療行為の一部(検査や診断、処方の説明など)は指導医が実施することもあった。

重視している内容：重症度把握、臨床推論、患者との意思疎通や対話、指導内容の絞り込み、フィードバック（良い点と要改善点）、経験的知見と医学的根拠、患者中心の医療、社会人としての態度といった点に重きを置いて指導が行われていた。

課題：研修医の診察が観察できない（人的資源の不足や診察室の構造から、指導医が研修医の診察を観察できない）、研修医の学びの意欲が低い（研修医の関心や志望科との一致や不一致において意欲の違いを指導医は感じている）、教育的症例の不足（緊急度の把握を要する症例や研修にて経験が必要な症例が一般外来診療の時間帯にないことがある）、新型コロナの影響（症例数や疾患の多様性の減少、発熱患者の未経験）といった課題があった。

指導医に求められる能力：指導能力を教育的態度、臨床能力、人間性といった3つの側面からみると指導医はとらえ、研修医を育成していた。教育的態度とは成人教育理論や指導方法を用いて、研修医の意欲を引き出しながら、外来診療初学者に適切な内容を効果的に指導する能力を意味する。また、臨床能力は最新の医学的根拠と十分な経験に裏付けられた臨床能力を有することである。そして、人間性とは良好な対人関係を築くことができ、職業意識と自らの医療観を認識して教育に反映させる能力を表す。

このように、一般外来診療の研修は、臨床研修の基本理念や到達目標に沿って実施されていた。目標達成とその際の困難を克服するために、指導医は、教育、臨床、態度の視点から自らの能力をとらえ指導にあたっていた。

#### 参考文献

- [1] 「新たな臨床研修の到達目標・方略・評価を踏まえた指導ガイドラインに関する研究」研究班 医師臨床研修指導ガイドライン 2020年度版 2019.
- [2] Torre DM, Daley BJ, Sebastian JL, Elnicki DM. Overview of current learning theories for medical educators. *American Journal of Medicine*. 119,903-907.2006.
- [3] Kisiel JB, Bundrick JB, Beckman TJ. Resident physicians' perspectives on effective outpatient teaching: a qualitative study. *Adv Health Sci Educ Theory Pract*. 15(3):357-368.2010.
- [4] Coyle A, Helenius I, Cruz CM. A Decade of Teaching and Learning in Internal Medicine Ambulatory Education: A Scoping Review. *Journal of Graduate Medical Education*, 11(2),132-142.2019.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川畑 秀伸、村上 学
2. 発表標題 初期臨床研修制度における一般外来診療研修の指導方法の探索的調査
3. 学会等名 第32回日本外来小児科学会年次集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川畑 秀伸
2. 発表標題 研修医への外来診療教育で求められる指導医の能力に関する探索的調査
3. 学会等名 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 学  (Murakami Manabu)  (30617436)	北海道大学・医学研究院・准教授   (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------